

国保財政は厳しさを増しています



健康づくりに取り組んで医療費を減らしましょう

医療費節約は待ったなしの課題

本町の国民健康保険の加入者数は、数年前から減少しているにもかかわらず、高齢化や医療技術の進歩、生活習慣病などの長期治療を必要とする慢性疾患患者の増加など、さまざまな理由で医療費は年々増加しています。

医療費の増加により国保財政は非常に厳しい状況で、単年度収支（ここ）では、前年度の繰越金と財政調整基金の繰入金を除いた歳入金額から、歳出金額を差し引いた額をいう）においても数年前から赤字となり、町では、平成24年度から国保税の税率および税額などを改定せざるを得なくなりました。今年度も、医療費はさらに増加し

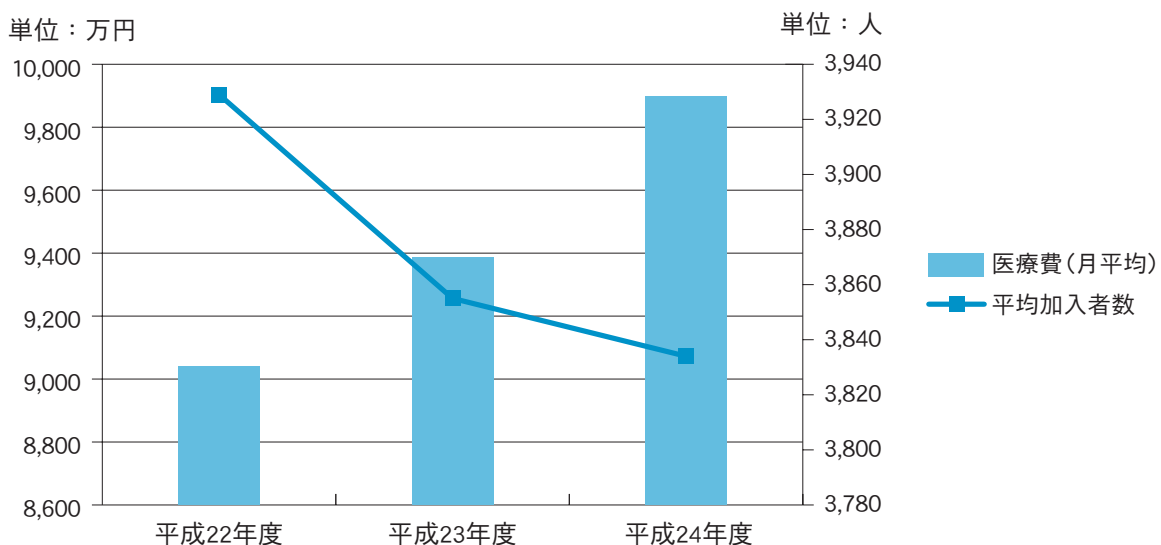
ており、赤字額も増大することが見込まれ、国保財政の健全化が重要な課題です。

将来にわたって町民の皆さんが安心して暮らせるよう、本町の国保事業を安定的に運営していくために、国保財政の実情をご理解いただき、今まで以上にみんなで健康づくりに取り組み、医療費を大切に使うように心掛けましょう。

● 国保加入者数と医療費の推移

年 度	平成22年度	平成23年度	平成24年度 (見込み)
平均加入者数	3,929人	3,855人	3,834人
医療費 (月平均)	90,398千円	93,846千円	98,967千円
単年度収支	△90,346千円	△37,665千円	△106,808千円

● 本町国民健康保険の加入者数と医療費の推移



文化財保護

史跡「陣ノ内館跡」
発掘調査レポート#30

「館跡」を観察する文化庁の文化財調査官

■文化庁も注目する「館跡」

12月に文化庁の三宅克広文化財調査官が、「陣ノ内館跡」を訪問されました。美里町の国指定史跡「堅志田城」の調査・整備状況を確認した後、初めて本町に視察に来られた調査官は、大規模な空堀や土塁がきれいな形で残っている状況に大変驚かれ、今後の調査に期待を寄せられていました。

近年、文化庁からの視察はほぼ毎年来られており、同庁でも注目されています。

■今年度の調査は12月～3月

今年度の調査は、12月から中心部の台地の上の4か所で開始しました。土塁の根元や入口の推定部分を発掘調査し、土塁の下には

600～700年前の遺構が残っているのか、入口には門や堀といった礎石建物を作っていたのかなどを推定します。特に西側の調査区では、堀と土塁が並行して作られていたのか注目されます。

どの調査区も「館跡」を語る上で非常に重要な個所で、3月まで行う予定ですので、お時間のある人はぜひ見学にいらしてください。事前に連絡いただければ、現地で説明も行います。公民館講座などでもご利用ください。

■1月23日(水)に研修会を開催

1月23日(水)午後1時30分から、町生涯学習センター・ホールで、県文化財保護審議会委員の佐藤征子さん(仁田子区)を講師に、「区有文書から見たムラの運営」と題して研修会を開催します(県文化財保護協会と町教育委員会主催)。

町内の各行政区に保管された古文書からどのようなことが分かるのか、ムラはどのように運営されてきたのかなど興味深い内容です。その後は、希望者を対象に「館跡」の現地見学も行います。皆さん奮ってご参加ください。詳しくは、町教育委員会社会教育課までお問い合わせください。

町教育委員会社会教育課 ☎096-234-2447(内線324) ✉klg110@town.kosa.lg.jp

男女共同参画

■女性農業者の活動の現状

少子高齢化に伴う就農人口の減少や後継者不足、耕作放棄地の増加など、農業を取り巻く環境はより厳しくなっています。

このような状況の中で、農業従事者に占める女性農業者は、全国で45・8割を占めています。本町では、女性単独の農業経営者は10割に満たないものの、女性(妻)が経営に参加する共同経営は39割を占めるなど、女性農業者の役割は非常に大きくなっています。

しかしながら、本町における認定農業者や農業委員に女性はおらず、県内や郡内と比較して、女性農業者が表立って活躍する機会が少ない傾向にあります。

■今後の女性の活躍の場

現状では、女性農業者は「緑の下の力持ち」の立場にありますが、本町では、今年度から「人・農地プラン」(※)の原案作成にあたって、検討委員の3割を女性が占めるように国から義務付けられるなど、今後の地域の農業を考えるうえで、女性農業者が非常に重要になってきています。

また、国の新たな政策として、6次産業化に取り組む女性農業者を後押し(新商品開発・施設整備を支援)する事業や、女性農業者のネットワークづくりなどの環境整備が整い始めています。

町としても「人・農地プラン」などの地域づくりを通じて、農業分野への女性参画の支援を考えています。

※「人・農地プラン」：農業者の高齢化、後継者不足、それに伴う耕作放棄地の増加などの「人と農地の問題」を地域で解決するために、地域が町と協力して作成する計画のこと

農業に関するお問い合わせ先
町産業振興課

☎096・234・1117
(内線157)

✉klg206@town.kosa.lg.jp

今後の農業における
女性農業者の役割

町農業研修センター「ろくじ館」で働く女性

町住民生活課 ☎096-234-1113(内線102) ✉klg106@town.kosa.lg.jp